

# 北海道地震津波の記録

## 「海が吠えた日」より

津波の思い出く二階で助かった

宮田 故 松下利恵子

南海地震当時、夫竹一郎は、角谷磯吉さんと沖吉初太郎さんらと、鮪船に乗っていたので、二歳の娘、千恵子と二人だった。二階には、このころ東の会堂に出張して来ていた接骨院へ治療に来とった県南の女親子が泊っていた。

大きな地震で恐ろしかったが、津波が来るとは思わず、そのまま家の中で待機していた。

しばらくすると、ザアザアという音がして道路へ潮が来た。第一波だろう？まさか二階までも潮がくるとも思わなんだし、その時は家の外へは、

もう逃げられなかったの、仕方なく親子で二階へ上がった。県南の女親子と四人で恐怖に包まれていた。

三回目の潮だったと思うが、小沢嘉代一さん宅と前の家（スマさん宅）が壊れて流れて来た。

ドラム缶がたくさん流れてきて、一階がメチャメチャに壊れてしまった。しばらくすると二階が後へ傾いて、生きた心地がしなかった。

いつ流されるか、恐怖におびえながら潮が引くまでの時間の長かったこと、本当によい辛抱でした。

夜が明けてから助けて戴き、近くの高台にある東の会堂に避難したがしばらくの間、足の震えが止まりませんでした。

亀井甚吉さん一家ほか、三家族と一緒に生活し、その後、灘の福井幸雄さん宅でお世話になった。

一階はメチャメチャに壊れて、何もかも流されたが、幸い二階は畳が濡れただけで、品物は濡れず助かってホッとしました。